

令和 8 年度 牧之原市議会

議会広報特別委員会視察研修報告書

視察日 令和 8 年 7 月 28 日（火）～ 7 月 29 日（水）

視察先 ◇埼玉県寄居町議会（議会広報紙の編集・デザインについて）

◇静岡県島田市議会（議会広報紙の編集・デザインについて）

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 絹 村 智 昭

研 修 名	令和８年度 牧之原市議会議会広報特別委員会視察研修
研修の期間	令和８年７月２８日（火）～７月２９日（水）
研 修 先	(１) 埼玉県寄居町議会 (２) 静岡県島田市議会
研修の目的	(１) 埼玉県寄居町議会：議会広報紙の編集・デザインについて (２) 静岡県島田市議会：議会広報紙の編集・デザインについて
(１)寄居町議会 議会広報特別委員会では、議会だより「かけはし」を、市民の皆様に手に取って読んでいただき、「かけはし」を通じて市民との架け橋となることを目指し、リニューアルを検討しています。そこで、全国町村議会議長会広報コンクールで最優秀賞５回受賞するなど、常に高い評価を受けている寄居町議会へ視察研修に伺いました。議会だよりでは、多くの住民が登場すると共に、議員の顔写真も多く掲載されており、親しみやすく分かりやすい紙面となっていました。また、表紙をめくるとすぐに特集ページを配置するなど、読者の興味を引く工夫が見られ、住民に寄り添った紙面づくりが高い評価に繋がっていると実感しました。委員会組織も副議長が副委員長を務めるなど議会全体で広報活動に力を入れている体制も印象的でした。 (２)島田市議会 島田市議会は、令和７年度、市民の投票により、「議会が行政と市民の橋わたし役であってほしい」という市民の思いを反映し、議会だよりの愛称を「橋わたし」と決定しました。また、以前から特集ページで市民インタビューを実施しており、毎号見開き２ページを使い、各常任委員会が持ち回りで特集記事を担当し、市内企業、諸団体、学校関係者などへのインタビューを通じ、市民目線を取り入れた紙面づくりが行われており、議会を身近に感じてもらう工夫がされておりました。 まとめ 今回の視察研修で学んだことを参考にして、市民に親しまれ、手に取って読んでもらえる議会だよりの作成に尽力していきます。	

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 石山 和生

研修名	令和８年度 牧之原市議会議会広報特別委員会視察研修
研修の期間	令和８年７月２８日（火）～７月２９日（水）
研修先	(１) 埼玉県寄居町議会 (２) 静岡県島田市議会
研修の目的	(１) 埼玉県寄居町議会：議会広報紙の編集・デザインについて (２) 静岡県島田市議会：議会広報紙の編集・デザインについて
研修内容及び所感 １ 埼玉県寄居町議会 寄居町議会では、議員一人ひとりがインタビュアーとなって町民の声を直接聞き、その内容を議会広報紙に反映している点が特に印象に残った。議員が広く関わり、議会全体の取組として進めていることに、広報に対する本気度を感じた。 寄居町議会の議会広報は非常に高い水準にあり、その取組は大いに参考となるものであった。一方で、同様の取組を議会広報特別委員会の立案だけで進めることは容易ではなく、議会全体としての理解と判断が必要になると感じた。 牧之原市議会でこのような取組を進めるのであれば、広報委員会を中心としながら、全議員が目的を共有し、それぞれの役割を担って議会全体で取り組む体制を整える必要がある。議員自身が町民と接して声を聞くことは、紙面の充実だけでなく、議会と市民との距離を縮めることにもつながると考える。	

2 静岡県島田市議会

島田市議会でも、市民と議会との距離を縮める取組として、市民インタビューを継続して実施している。

インタビューの対象者については、特定の委員や議員だけで決めるのではなく、委員会で協議して選定する方式を採用しているとのことであった。この方法であれば、対象者を選ぶ際の公平性を確保するとともに、委員全員の理解と同意を得た上で取材を進めることができる。市民インタビューを継続的に実施するための仕組みとして、納得できる方法であると感じた。

牧之原市議会において市民インタビューを実施する場合にも、対象者の選定基準や手順をあらかじめ明確にし、委員会で協議して決定する仕組みが参考になると考える。これにより公平性を保ちながら、多様な市民の声を議会広報紙に掲載できるのではないかと感じた。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 鈴木 長馬

研 修 名	令和８年度 牧之原市議会議会広報特別委員会視察研修
研修の期間	令和８年７月２８日（火）～７月２９日（水）
研 修 先	（１） 埼玉県寄居町議会 （２） 静岡県島田市議会
研修の目的	（１） 埼玉県寄居町議会：議会広報紙の編集・デザインについて （２） 静岡県島田市議会：議会広報紙の編集・デザインについて
埼玉県寄居町議会広報誌の編集、デザインについての研修 議会特別委員長他６名により寄居町議会広報特別委員会を訪問し、研修を行いました。委員長他７名により対応していただいた。 寄居町は町村議会広報全国コンクールで最優秀賞（第一位）を受賞している広報誌であり牧之原市の広報誌にも反映したく意見交換を実施しました。 議会活動の見える化を目標にわかりやすく多くの方法での広報、公聴の活動の充実を行った。見た目だけ変えても「評価」はしない議会だよりを改革のツールとした「聴く動く」の実践、特化した特集により、住民参加を取り組み、議会と町民との意見を多く掲載し、議会広報誌の読者をする事ができた。 そのことにより、主役は議員から町民へと大きく変化した。 編集方針として、読まれない議会だよりは出す意味がなしのもとに興味を持って手に取ってもらえる広報誌にするため多くの町民登場を心掛け議員とのそれぞれの視点を掲載する。 それには、議員が直接取材し、町民の声を付度なく名前、顔写真、コメントを掲載する。 議会だよりの主役は市民であり、広報誌でのリニューアルだけでなく、議員としての役割、住民自治の窓口としてまた元代表の役割をかえていく必要があると思われる。	

島田市広報特別議会広報誌の編集デザインについての研修

島田市広報特別委員長他 4 名の対応により研修いたしました。

編集は委員 6 人、担当者 1 人で年 4 回発行し、主な役割分担として、特別委員会取材、原稿作成、写真撮影、校正、議会事務局は校正、議員提出原稿のとりまとめ、一部原稿作成、取材随行、レイアウト（案）の作成。

業者はデザイン、校正、印刷を行っている。特集ページとして、市民インタビューの記事を毎号見開き 2 ページを各常任委員会が持ち回りで特集記事を担当している。

市民インタビューの目的は市民の皆さんに議会を身近かに感じてもらい、時の話題等により記事は決めている。

流れとして、

1. 各常任委員会ごと取材先を決める。
2. 委員が直接団体へ取材交渉、必要に応じて事務局から依頼。
3. 取材（委員、担当書記随行）
4. 委員が記事を作成
5. 取材先に記事（案）を送付、確認致しました。依頼を行い誌面に記載する。

しまだ議会だよりは市民調査の結果から議会だよりを読む市民の役割は全体の 64、1%に対して 10 代から 30 代は 29. 5%となっており若者の割合が低いことから市内の高等学校（実業）との意見会を行い、次世代を担う高校生が議会や島田市の現状をどのように考え、今後どうなって欲しいかの意見を市制に反映できる場を設けた。

意見交換会により全ページカラー化、文字が多く読みにくいが写真等の意見を取り入れていた。カラー化に向けた研修と株式会社社会議録センターにより課題等について意見をもらうこととした。

広報委員会の取り組みとして夏休み親子議場探検ツアー、中学生の職場体験の受入れ、中学校の総合学習への議員の参加等に取り組んだ。

議会広報誌は手に取り読んでみたくなる議会だよりを目指している。かけはしについても市民参加の広報誌に向けてより良い議論を重ね、誌面にまた市民参加の広報を心掛けてることが大切だと思われます。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 菅沼 保弘

研 修 名	令和8年度 牧之原市議会議会広報特別委員会視察研修
研修の期間	令和8年7月28日（火）～7月29日（水）
研 修 先	(1) 埼玉県寄居町議会 (2) 静岡県島田市議会
研修の目的	(1) 埼玉県寄居町議会：議会広報紙の編集・デザインについて (2) 静岡県島田市議会：議会広報紙の編集・デザインについて
1 視察の目的 牧之原市議会広報紙の改善に向け、以下の点を重点的に学ぶため、埼玉県寄居町議会および静岡県島田市議会を視察した。 ・ 市民の声を広報紙に反映する方法 ・ 読みやすく親しみやすい紙面構成・デザイン ・ 若年層を含む読者層の拡大策 ・ 議会と市民の距離を縮める広報のあり方 2 視察概要 (1) 視察日程 ・ 令和8年7月28日（火） 寄居町議会（埼玉県） ・ 令和8年7月29日（水） 島田市議会（静岡県） (2) 参加者 議会広報特別委員会委員 6 名 議会事務局職員 2 名 3 寄居町議会の取組（埼玉県） 寄居町議会は、全国コンクールで最優秀賞を複数回受賞するなど、全国トップレベルの広報紙を作成している。 (1) 市民の声を「議会と並列」に掲載 寄居町議会の最大の特徴は、 予算・決算・重要案件について「議会の視点」と「町民の視点」を必ず並列で掲載することである。 ※資料より「多くの町民登場を心がけ、予算・決算・重要案件には必ず議会と町民それぞれの視点を掲載する」	

これにより、広報紙が単なる議会報告ではなく、“町民と議会の対話紙”として機能している。

(2) 町民インタビューは議員が直接行う

議員自らが町民へ取材し、意見を集める。取材依頼 → インタビュー → 原稿化 → 本人確認という流れが確立しており、議員が市民の声を直接聞くこと自体が広報活動となっている。

(3) 写真を多用し、登場人物を増やす

紙面に「人の顔」が多く掲載されており、読者が自分ごととして読みやすくなる。視覚的な親しみやすさが高く、読者層の拡大につながっている。

(4) 文章は極めてコンパクト

寄居町は文章量を絞り、要点を短くまとめる編集方針を徹底している。限られた紙面でも読みやすさを確保し、若年層にも負担感を与えない。

4 島田市議会の取組（静岡県）

島田市議会は、令和7年6月号から大幅なりニューアルを実施し、「読みたいと思ってもらえる紙面」を目指して改善を続けている。

(1) 市民インタビューの継続

平成26年から毎号、市民インタビューを掲載。目的は資料に明記されている通り、

「市民の皆さんに議会を身近に感じてもらいたい」

取材先は企業・団体・学校など幅広く、各常任委員会が持ち回りで担当している。

(2) 高校生との意見交換会

高校生からの意見として、

- ・ 文字が多くて読みにくい
- ・ 写真を増やしてほしい
- ・ 全ページカラー化してほしい

などが寄せられ、実際にフルカラー化を実施した。若年層の声を直接聞くことで、改善点が明確になり、紙面の刷新につながっている。

(3) レイアウト改善

一般質問の掲載方法を 1/2 ページ → 1/3 ページ に変更し、紙面の密度を調整しながら読みやすさを向上させている。

(4) 表紙デザインの刷新

「手に取ってもらわなければ意味がない」との認識から、表紙デザインを複数回試行し、視認性と親しみやすさを追求している。

5 視察を通して得られた示唆

寄居町と島田市の共通点は、「市民の声を紙面に反映し、議会と市民の距離を縮める」という明確な理念を持っている点である。

(1) 市民の声を広報紙に載せることの効果

- ・ 議会の説明だけでは届かない層に届く
- ・ 市民の生活感が紙面に入り、読み物としての魅力が増す
- ・ 議員自身が市民の声を聞く機会が増え、議会活動の質向上につながる
- ・ 若年層が「自分たちの話題が載っている」と感じ、広報紙を手にするきっかけになる

(2) 読みやすい紙面づくりのポイント

- ・ 写真を多く使う
- ・ 文字量を減らす
- ・ 見出しで強弱をつける
- ・ カラー化で視認性を高める
- ・ 表紙を工夫し、まず手に取ってもらう

(3) 若年層へのアプローチ

島田市の高校生意見交換会は非常に参考になった。 牧之原市でも、

- ・ 高校生・大学生・若手社会人との意見交換会
- ・ 若者が登場する特集
- ・ SNS 連携 などを検討する価値がある。

(4) 市民参加型企画の導入

島田市の「愛称募集」のように、市民が広報紙づくりに参加できる仕組みを作ると、広報紙への関心が高まり、読者増につながる。

6 牧之原市議会広報への提案（視察を踏まえた方向性）

① 市民インタビューの導入・強化

- ・ 毎号、市民の声を掲載
- ・ 分野（農業・企業・学校・子育て・スポーツなど）をローテーション
- ・ 議員が直接取材し、議会活動と連動させる

② 読みやすさの改善

- ・ 写真の増加 ・ 文字量の削減 ・ 見出しの強調 ・ カラー化の検討 ・ 表紙デザインの刷新

③ 若年層との対話の場の創出

- ・ 高校生との意見交換会 ・ 若者向けアンケート ・ 若者が登場する特集

④ 市民参加型企画の実施

- ・ 広報紙の愛称募集 ・ 市民投稿コーナー ・ 市民写真コンテストとの連携

7 まとめ

今回の視察で、寄居町議会・島田市議会ともに、「市民の声を紙面に反映し、議会と市民の距離を縮める」という強い理念を持って広報紙を作成していることが分かった。

牧之原市議会としても、

- ・ 市民インタビューの導入 ・ 読みやすい紙面への改善 ・ 若年層へのアプローチ
- ・ 市民参加型企画などを進めることで、“市民に親しまれ、読まれる広報紙”へと進化できると考える。

今後、委員会として具体的な改善策を検討し、牧之原市議会広報紙のさらなる充実を図っていきたい。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 篠崎 朗子

研 修 名	令和8年度 牧之原市議会広報特別委員会視察
研修の期間	令和8年5月14日(火)～5月15日(金)
研 修 先	(1) 埼玉県寄居町 (2) 静岡県島田市
研修の目的	(1) 埼玉県寄居町：議会広報について (2) 静岡県島田市：議会広報について
(1) 埼玉県寄居町 今回の寄居町議会の視察では、議会広報のデザインやレイアウト以上に、「広報に対する考え方」と「議員一人ひとりの姿勢」に最も強い感銘を受けました。 特に印象的だったのは、広報誌を作るための手間を惜しまず、議員自らが町民のもとへ足を運び、率直な意見を聞いていることです。厳しい意見や辛辣な声であっても真摯に受け止め、それを広報紙に掲載する姿勢は「広報を通じて本物の議員活動を行う」という強い信念の表れだと感じました。 また、議長呼びかけのもと、議会全体が一体となって広報づくりに取り組んでいる点も大きな学びでした。本会議前には議案や議論の流れを予測してラフを作成し、その後、町民への取材や本会議での議論を反映しながら誌面を完成させていく。この一連の流れが、単なる「議会報告」にとどまらず、町民の声を政策提言へとつなげる仕組みとして機能していることに、大変感銘を受けました。 これまで数々の議会広報コンクールで受賞されてきた背景には、優れたデザインや文章力だけではなく、「読んでもらうためにはどうすればよいか」「町民との距離をどう縮めるか」を徹底的に考え続けてきた積み重ねがあることを実感しました。 視察の中で特に心に残った頃場が、「読まれない広報はいらない」という考え方です。 牧之原市議会広報の名前は「かけはし」です。しかし、本当に市民の皆さんに読まれ、議会と市民をつなぐ”かけはし”になっているのか、改めて考えさせられました。手に取ってもらえる工夫はもちろん、「自分の声が議会広報に載るかもしれない」「議会は自分たちの声を聞いてくれる」という実感を市民の皆さんに持っていただける広報づくりが、これからますます重要になると感じています。	

今回の視察を通して、広報は完成した議論を伝えるためのものではなく、市民との対話を生み出し、その声を議会活動へ反映させるための大切なツールであることを改めて学びました。

私自身もラフな服装に腕章を着け、いつでも取材ができるようなスタイルで地域へ飛び出し、市民の皆さんの声を直接聞きながら広報づくりに取り組みたいという気持ちになりました。この学びを牧之原市議会広報「かけはし」に生かし、市民により身近で、読まれ、親しまれる広報を目指していきたいと思います。

（２）静岡県島田市

島田市議会の視察では、市民インタビューを中心とした広報づくりが非常に印象的でした。寄居町のように多くの時間と労力をかける手法とは異なりますが、牧之原市でも取り組みやすく、広報改革の第一歩として取り入れやすい仕組みだと感じました。

島田市では、常任委員会から２名ずつ選出された６名で広報主権者委員会を構成し、市民インタビューは各常任委員会が順番に担当しています。それぞれの委員会が所管するテーマに合わせて取材を企画することで、分野の偏りがなく、多様な市民の声を広報誌に反映できる仕組みとなっています。この体制は、牧之原市でも参考にしていきたい点のひとつです。

また市民インタビューを始めたきっかけについても興味不快お話を伺いました。選挙権年齢が１８歳に引き下げられたことを受け、市内５校の高校生へのインタビューを継続的に実施し、その後、対象を常任委員会ごとのテーマへと発展させてきたとのことでした。

この流れを踏まえると、牧之原市では、現在議会広報の表紙を依頼している小学校とのつながりを生かし、子どもたちへのインタビューから始めることが自然な第一歩になるのではないかと感じました。小学生の写真や声が誌面に掲載されることで、保護者や地域の方々にも広報を手にとっていただくきっかけとなり、読者の拡大が期待できます。また、子どもたちにとっても議会を身近に感じる貴重な機会になると考えます。ただ、企画を始めて１周した段階で小学校への依頼を見直す、という必要もあるのではないかと考えています。

さらに、寄居町と島田市の両市に共通していたのは、市民を紙面に多く登場させるため、議員一人ひとりの一般質問の掲載スペースをあえてコンパクトにしている点でした。この考え方は、「議員が伝えたいこと」ではなく、「市民が読みたい広報」を目指す姿勢の表れであり、大変参考になりました。

牧之原市においても、一般質問は市民に伝えたいポイントを簡潔にまとめ、問いと答えをわかりやすく掲載するとともに、より詳しい内容は動画へ誘導するなど、紙面とデジタル媒体を組み合わせた情報発信も検討できるのではないかと感じました。

今回の視察を通して、議会広報は議員が活動を報告するための媒体ではなく、市民が主役となり、市民との距離を縮めるための媒体であるという視点の大切さを改めて学びました。この学びを牧之原市議会広報「かけはし」に生かし、市民に親し

まれ、手に取っていただける広報づくりにつなげていきたいと思います。

視 察 研 修 報 告 書

牧之原市議会議長 様

氏名 中山尚大

研 修 名	令和８年度 牧之原市議会議会広報特別委員会視察研修
研修の期間	令和８年７月２８日（火）～７月２９日（水）
研 修 先	(１) 埼玉県寄居町議会 (２) 静岡県島田市議会事務局
研修の目的	(１) 埼玉県寄居町議会：議会広報紙の編集・デザインについて (２) 静岡県島田市議会：議会広報紙の編集・デザインについて
今回、議会広報特別委員会の視察として、埼玉県寄居町および近隣自治体である島田市を訪問しました。 まず全体の所感として、今回の視察は、寄居町議会の議会広報に対する熱意や考え方を知ることができたという点で、非常に有意義なものとなりました。 寄居町に関して 当初、私は今回の視察について、議会広報特別委員会という委員会の性質上、議会広報誌の編集ノウハウを学ぶために、本当に委員が現地まで足を運ぶ必要があるのかという点に懐疑的でした。 編集に関するノウハウであれば、メールや電話、オンライン会議などを通じて伺うことも可能です。また、講師を招いて学ぶという方法も考えられます。その方が移動費などを抑えることができ、削減した費用をほかの事業に活用する方が生産的ではないかと考えており、視察そのものの意義については、かなり慎重に意義を見極めなければと考えておりました。 しかし、実際に現地を訪れてみると、文章や資料だけでは十分に伝わらない、議会広報に対する熱意や方針、これまで積み重ねてきたノウハウ、そしてその根底にある考え方を直接感じることができました。 想像していた以上に多くの学びがあり、良い意味で期待を大きく裏切られた視察で	

あったと感じています。

島田市議会への視察について

こちらは視察とは必ずしも遠方へ出向くものではなく、近隣自治体であっても学ぶべき点があれば現地を訪れ、ほかの議会の雰囲気や取り組みを学ぶことに十分な意義があると感じました。

近隣の自治体であっても、別の議会であることに変わりはなく、牧之原市議会とは異なる議会の雰囲気や考え方を直接感じることができます。

また、距離が近いからこそ親近感を持ちやすく、自治体の立地条件や地域性など、共通する部分や感覚的に近い部分も多くあります。そのため、土地勘が全くない遠方の自治体を訪問するよりも、具体的な比較や検討がしやすい面もあるのではないかと感じました。

さらに、近隣自治体への視察であれば、宿泊費をはじめとした経費を抑えることもできます。そこで生じた余剰予算をほかの活動に充てることや、今後の視察予算そのものを削減することにもつながるのではないかと思います。

今後も、日帰りで訪問できる範囲の市町への視察については、積極的に実施してもよいのではないかと考えています。

寄居町と島田市の双方に共通して感じたのは、委員会としての決定力が非常に強く、委員会外部からの意見に過度に左右されることなく、議論や編集作業が進められているように見えた点です。

一方、牧之原市議会の委員会の状況を見ると、委員会外部からの意見の影響を受けやすく、その結果として、意思決定のスピードや変化を実現するための決断力に差が生じているように感じます。

私たちも、組織全体のあり方として、両議会の姿勢を学びながら変化していく必要があると考えます。

自分たちが編集した内容を否定されるかもしれないと考え、あらゆる反論を想定しながら無難な内容にまとめることと、自分たちが実現したい広報誌を目指して編集していくこととでは、完成する広報誌の質も大きく変わってきます。

まずは、議会広報誌の編集に関する判断を、一定程度委員会に一任してもらうことが必要です。無難な広報誌を作るのではなく、委員会としての考え方や個性を出せる組織をつくることが重要であると考えます。

両市町の編集方法についていただいた質問に関する返答には、すべての取り組みをそのまま導入することは難しいとしても、まずは少しでも参考にできる部分を取り入れてみることも、また、実際に取り入れることができなかったとしても、その背景にある考え方を理解しておくことが生産的ではないかと考えています。

民間企業同士とは異なり、地方自治体同士では、他自治体の良い取り組みを参考にしたからといって、相手の利益を損なうことはありません。

良い部分については積極的に取り入れ、牧之原市にとって有益な形へと発展させていくことが重要であると考えます。

次に反省点として

まず島田市では、事前に送付していた質問に対して、十分な回答を得ることができなかったことが挙げられます。

当日は、島田市議会側からパワーポイントを用いた説明を受けた後、各委員が自由に質問するという流れでした。そのため、私たちが事前に送付していた質問のすべてについて、改めて相手方に確認することができませんでした。

このような場合には、自由な質疑応答の時間とは別に、事前に送付した質問に一つずつ回答していただく時間を設けるべきであったと考えます。

寄居町と島田市の双方に共通する点として、質問に対して誰に回答してもらうのかを、あらかじめ明確にしておくことも重要であると感じました。

議会事務局に回答してもらう場合と、その場の委員長や委員に回答してもらう場合とでは、立場や考え方が大きく異なります。

この質問は議会事務局に回答してもらいたい、この質問は委員長に回答してもらい

たいということを事前に伝えた上で質問する形にすれば、より質問の質を高めることができるのではないかと考えます。

視察内容に関して

今回の質問内容については、寄居町ではデザイン、島田市では市民インタビューを主なテーマとして伺う予定でした。

しかし、実際に現地を訪れて質問してみると、当初設定していたテーマとは異なる質問も多く出されました。また、実際の学びについても、当初想定していた部分とは別の部分に大きな学びがあることが少なくありませんでした。

このように、事前に想定していた内容と、現地で実際に感じる課題や疑問には、大きな違いが生じることがあります。

そのため、事前に細かな質問を明確に作成し、その回答を受けることだけを目的とする視察には、限界があると感じました

今後は、特定の市町について、あらかじめ学びたい項目を細かく限定して質問を送るのではなく、質の高い議会広報誌を制作している自治体や、議会広報に対する熱意が感じられる自治体など、ある程度抽象的な観点から魅力を感じる視察先を選ぶ方法も考えられます。

その上で、議会広報全体に対する姿勢や考え方について質問を用意し、実際に現地を訪れて、その場で疑問に感じたことを具体的に聞くという形が、より良い視察につながるのではないのでしょうか。

今後の具体的な委員会活動の方針の一つとして、島田市が利用しているデザイン会社と予算の概要について説明を受けたことを踏まえ、その仕組みが牧之原市でも実現可能なのか、具体的な見積もりを取り、シミュレーションしてみるべきであると考えます。

帰りの車内でも、議員と議会事務局の間で少し話をしましたが、実施しない理由はいくらでも挙げることができます。

しかし、まずは実現するためには何が必要なのかという視点から、具体的なシミュレーションを行ってみることが重要であると考えています。

現在、議会広報誌のリニューアルを進めており、具体的なデザイン案や、今後の段

取りもある程度決まっています。

このように、すでに一定の方向性が決まっている中で、今回の視察で得た学びをどの程度盛り込むことができるのかについては、正直なところ、現段階では分かりません。

その意味でも、今回の視察をこのタイミングで実施することが最適であったのか、あるいはリニューアルのデザイン案が決定する前に実施すべきではなかったのかについて、きちんと検証し、話し合う必要があると考えます。

すでにリニューアルのデザイン案は示されていますが、その中に今回学んだ内容を少しでも反映できるよう、委員会内で改めて協議する時間を設けるべきではないでしょうか。

今回、特に印象的であったのは、寄居町では前回の町議会議員選挙が無投票であったものの、その後、議会広報誌においてさまざまな特集を積み重ねてきたという経緯があり、その次の選挙では候補者が立ったという点です。

議会広報誌の取り組みが、選挙の候補者数にどの程度影響を与えたのかは分かりません。

しかし、議会の考え方や活動を住民に伝え、議会の存在をアピールする場として、議会広報誌は非常に大きな意味を持っていたのではないかと考えます。

このように、私たち議会広報特別委員会の考え方や取り組みが、議会広報誌の編集だけにとどまらず、議会全体へと波及していくような機会を、今後少しでも増やしていくことができればよいと考えています。

まとめ

今回の視察を通じて、意思決定のあり方、視察先の選定方法、質問の進め方、さらには視察そのものの意義についても、多くの学びを得ることができました。

特に、寄居町と島田市の取り組みからは、議会広報に対する熱意や明確な方針を持ち、委員会が主体性を持って編集を進めることの重要性を強く感じました。質の高い議会広報誌をつくるためには、他者からの反対を過度に意識して無難な内容にまとめるのではなく、委員会として何を市民に伝えたいのかを明確にし、その実現に向けて一定の決断力を持って取り組む必要があります。

また、視察は単に他自治体の手法を聞き、そのまま持ち帰るものではなく、現地の雰囲気や熱意、取り組みの背景にある考え方を直接感じ、自分たちの議会にどのよ

うに生かせるかを考える機会であることも改めて認識しました。距離の遠近にかかわらず、学ぶべき点がある自治体には積極的に足を運ぶ一方で、費用対効果や実施時期、事前準備の方法については、今後さらに検討していく必要があります。

今回得た学びを視察だけで終わらせず、まずは実現可能な取り組みについて具体的な見積もりやシミュレーションを行い、現在進めている議会広報誌のリニューアルに反映できる点を委員会内で協議していくことが重要です。

議会広報誌は、単なる議会活動の報告書ではなく、市民に議会の考え方や活動を伝え、議会への関心を高めるための重要な媒体です。特に、牧之原市では、より多くの市民に読んでもらえる広報誌をつくるという明確な目標もあります。今回の視察を契機として、議会広報特別委員会がより主体性と決断力を持ち、牧之原市議会全体の活性化にもつながるような広報誌づくりを進めていけるよう努めたいと思います。